

サポーターズミーティングにおける意見（概要）

1. 設置目的

若者や女性など、地域活動等に積極的に取り組んでいる人材を中心に跡地活用策の検討を行う。先行的な賑わいの創出のための活用策をはじめ、跡地の情報発信、地域との連携方法など、様々なアイデアを生み出していく仕組み。

2. 構成メンバー（敬称略）

| 氏名 | 所属等 |
|-------|---------------------------------|
| 荒木 ゆい | 江戸町自治会青年部 部長 |
| 岩本 諭 | 斜面地・空き家活用団体つくる 代表 |
| 江口 忠宏 | DEJIMA BASE 代表 |
| 斉藤 秀男 | 地域おこし協力隊（長崎市琴海地区） |
| 高浪 高彰 | 長崎雑貨たてまつる 店主 |
| 森 恭平 | 江戸町自治会青年部 役員 |
| 安元 哲男 | アートクェイク 代表 |
| 山田 早織 | 株式会社イーズワークス 出版営業部 |
| 吉持 和美 | 合同会社 wakuwa プランニング プロジェクトコンダクター |
| 渡辺 敦子 | 合同会社 wakuwa プランニング プロジェクトコンダクター |

3. 意見の概要

（1）全般

- ・ 県庁舎跡地活用にかかる基本理念の趣旨については理解している。いろいろな角度から議論し、それぞれの立場や切り口で意見を出し合い、さらに理解を深めながら進めていけばよいと考える。
- ・ 基本理念の趣旨を踏まえつつ、県庁舎跡地でしかできないことや、どのような賑わいがこの地にふさわしいかなど、具体的なイメージを議論・共有しながら進めていく必要がある。
- ・ 歴史を感じるだけでなく、まちなかで普段できないことができたり、新しい挑戦をすることができるというのがこの地の魅力であり、そういった要素は残しておくべきと考える。
- ・ 利用状況等を検証しながら整備を進めていく形がよい。併せて、どのようにして利用促進等を図っていくか計画の方向性を整理していく必要がある。
- ・ 例えば、キッチンカーなどの飲食関係が出店する場合も、基本構想におけ

る「歴史を活かす」、「賑わいや交流の拡大」「新たな価値の創造」などのコンセプトに関連付けて作り込むことが重要。この地の歴史をストーリー付けすることで、使ってみたいと興味を持つ人もいると考える。

- ・ 土地が少ないことや坂が多いなど、長崎のデメリットをプラスに捉える思考を持ってはどうか。例えば、跡地では様々な人がコンパクトに活動できる、といったことが売りになったりするのではと考える。
- ・ 県庁舎跡地がどんな場所なのか詳しく理解している人は少ない。この地の魅力や今後の利活用について広く知ってもらうにはどうしたら良いかとの視点で、何をどのようにして発信していくかしっかりと考える必要がある。

①情報発信の方法（例）

- ・ 仮囲い
- ・ QRコード（HP、YouTubeへのリンク）
- ・ SNS
- ・ YouTube（動画配信） など

②情報発信の内容（例）

- ・ 跡地の歴史と変遷
- ・ 埋蔵文化財調査の結果、石垣の状況
- ・ 第二別館跡地の貸付・利用状況 など

（2）賑わいづくりにおける留意点

- ・ 「にぎわい」という言葉を因数分解しておく必要がある。跡地で目指している「にぎわい」とは、単に人を集めることだけではなく、多様な人々の姿や多様なアクティビティがあること、ひいては私たちの日常が豊かになっていくことではないかと考える。この地をどういう場所にしていきたいかについて、しっかり言語化する必要がある。
- ・ 地元との連携を意識してイベント等を継続していくことが重要である。地域で毎月行われている清掃活動のつながりを活かして、定期的に跡地に関する取組を行い、さらに次の機会につなげていくことができれば無理なく継続することができ、併せて、連携した取組の情報発信にもつながると考える。
- ・ 広場等の暫定供用にあたっては、この地で活動する人（プレイヤー）の掘り起こしを行うとともに、そうした人からの相談に応じるリーダー的な存在が必要と考える。
- ・ 賑わいづくりにおいては、多くの視点を持つことが大事である。こうした視点で、基本理念に沿ったテーマ等を設定し、大学のゼミなどで研究・実践してもらうなど、活動主体を広げていく取組が必要と考える。

（3）検証における留意点

①検証方法等

- ・ 評価基準など一定のルールを設けて進めていくべきと考える。
- ・ 更地（オープンスペース）でも使い方は広げることができる。暫定供用の段階では、あまり作り込みすぎないようにすべき。
- ・ オープンスペースの利用にあたっては、一定のテーマ性をもたせるとよい。
- ・ 全面を使ってもらうよりも、人が良く通るところ、通らないところで区切りを設けるなど、空間を小さく区切って始めるのがよい。
- ・ 暫定供用の期間中に、例えば、屋根の素材を複数試すなど、途中の期間だからこそできる試行的な取組なども検討してはどうかと考える。
- ・ 継続的な実施につなげていくためにも、イベント主催者等へのフォローをしっかりと行うことが大事。
- ・ 運営協議会などについては、組織の代表者や有識者等だけでなく、実際に活動するプレイヤーを中心に構成するのが良いと考える。
- ・ 検証作業と並行して、ヒアリングなどを通じ、活動の掘り起こしを行ってはどうかと考える。
- ・ 実際に先行利用するチーム、運営を中心に携わるチームなどに役割を分けて、持続的な賑わいづくりに向けた「プレ運営組織」のような仕組みを検討してはどうかと考える。
- ・ 利用する人たちにイベント等の開催に向けた支援を行う中で、跡地に対する理解を深めてもらい、愛着を持ってもらえるようにしていくことが重要と考える。

②具体的な検証項目（例）

- ・ 火気の使用
- ・ 屋根の設置、その他の設え
- ・ 騒音
- ・ 駐車場、交通関係
- ・ 屋外空間の日常的な利用の可能性（屋外オフィス等） など